

科目責任者 渡辺 啓

■ 教育目的

「化粧品（化粧品）とは、人の身体を清潔にし、美化し…」と医薬品医療機器等法に定義されています。しかし、法律だけでは化粧品を理解できません。薬学を学ぶみなさんになじみのある医薬品と化粧品は異なる点が多くあります。本講義では、化粧品をさまざまな角度から理解するために必要な知識や考え方を述べます。化粧品に関連する科学とのつながり、最新の技術知見、などを習得していただきます。【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、SD-④】

■ 学習到達目標

1. 化粧の目的、意義ならびに化粧品の品質特性と関連する科学とのつながりを理解する。
2. 皮膚、毛髪などの構造と生理機能を学び、化粧品とのかかわりを理解する。
3. 化粧品の製造の基礎となる界面科学を学び、代表的な製品の機能と役割を理解する。
4. 化粧品の生理的、物理化学的、心理的な有用性について理解する。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：テーマに関連した内容をインターネットで検索したり、図書館で調べたりして大まかに把握しておく（20分以上）。

復習：ノートと配布資料にもう一度目を通し、講義内で強調した点について自分で調べ理解を深める（20分以上）。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	化粧品概論	化粧品の定義、分類、品質特性、化粧品と関連科学	
2~4	化粧品と皮膚	皮膚の構造と機能、生理作用、肌質、皮膚と紫外線、皮膚の老化（しみ、しわ、たるみ）、皮膚のトラブル	
5	化粧品の物理化学	界面科学（乳化、可溶化、分散）	
6	スキンケア製品	スキンケア製品とその機能	
7	メイキャップ製品	色彩概論、メイキャップ製品とその機能	
8	毛髪概論	毛髪の構造、物理化学的性質	
9	毛髪製品	毛髪製品とその機能	
10	洗浄製品	洗浄製品とその機能	
11	品質保証	化粧品の安全性、安定性	
12	フレグランス製品	香料概論、フレグランス製品とその機能	
13	医薬部外品	医薬部外品とは？薬用化粧品の効能効果	
14	化粧品の有用性	化粧品の生理学的、物理学的、心理学的な有用性、高齢化社会と化粧品	

■ 授業分担者

渡辺 啓 (No.1、5~10、12)、大田 正弘 (No.2~4、11、13~14)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

課題（レポート、試験等）のフィードバックについて：講義等に関する質問等を個別に受け付け、解説・説明をする。

成績評価方法：期末試験（80%）および出席状況・授業態度（20%）で総合評価を行う。

■ 参考書

- 『新化粧品学』 光井 武夫 編（南山堂）
 『化粧品事典』 日本化粧品技術者会 編（丸善）